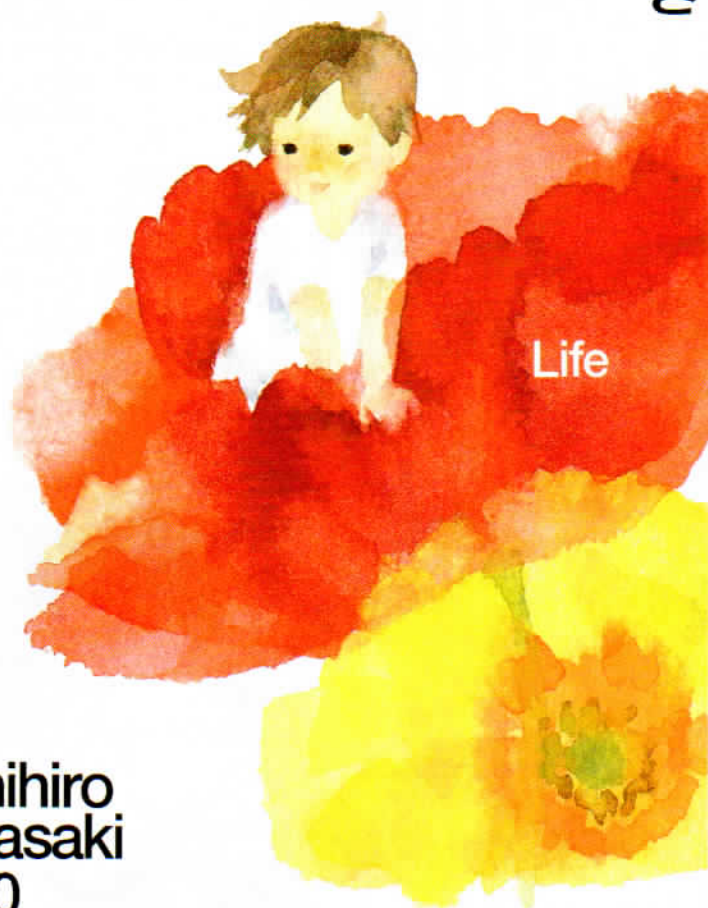


# いわさきちひろ 生誕100年。 1年に及ぶ展覧会が 始まります。

いわさきちひろ  
生誕  
100年



Chihiro  
Iwasaki  
100

けしの花のなかのあかちゃん 1960年代後半

生誕100年記念展のテーマは、「Life」。それは、いのち、生命の力という意味だけでなく、人生、生活など幅広い意味を持ち、ちひろが最も大切にし、描き続けたものでした。いまの時代の「Life」を見つめ直してほしい、という意味も込められています。

いわさきちひろが生まれたのは、1918（大正7）年12月15日。今年、生誕100年を迎えます。55年の短い生涯で9千枚以上の作品を残し、40年以上の歳月が流れても、それらの絵は色あせることなく愛され続けています。その秘密を、ちひろの一人息子でちひろ美術館常任顧問の松本猛さんに伺うと、

「ちひろの絵が時代と国境を超えて愛されるのは、平和を願いのちの大切さを描いているからだと思います」と、答えが返ってきました。

満州での最初の結婚生活と夫の自殺、引き揚げ、東京大空襲。青春時代にいのちを見つめざるを得ない経験をしたからこそ、ちひろの絵は誕生したのです。

## ちひろの感性を 育んだ3人

没後、ちひろ美術館（東京・安曇野）が誕生し、多くの画集や本、評伝が出版され、ちひろの作品は多くの人に知られるところとなりました。そして今回、生誕100年を記念し、猛さん

# ちひろの絵が

# 時代と国境を超えて愛されるのは、「いのち」の大切さを描いているから。

による新たな評伝が加わりました。調査・執筆に3年半。あえて取り組んだのは、「いままでの評伝にはない部分、画家、いわさきちひろは、いかにして誕生したのか」を掘り下げておくことが、今後のちひろ研究の基礎になると考えたから」だと言います。

ちひろに大きな影響を与えた人物。その一人が、大正デモクラシーの中で自然主義文学に傾倒し、リベラルな生活を送っていた父、岩崎正勝（まさかつ）です。

「彼の本棚には画集があり、児童文学がたくさんあった。僕も子どもの頃、母の仕事場へ行き、本を読むのが大好きでした。弁護士だった父の本棚より、数十倍面白い。だから、僕は母と話すのが楽しかった。多分、ちひろと父・正勝もそんな関係だったのではないだろうか」

たのではないだろうか」

そして、女学校時代のちひろの感性を育てたのが、府立第六高等女学校（現・都立三田高等学校）の丸山丈作（はらやま）校長です。

「当時の女学生は着物と袴で通学していましたが、第六には大正時代からジャンパー・スカートの制服がありました。これは丸山校長が合理的で、人は服装ではなく、中身で判断するもの」という考えを持っていたからです。生徒が一流のものに触れて人間として豊かになることを大切にし、設備の充実にも力を入れていました。ミシン室や洗濯室まであったそうです。また、成績を気にして好きなことができないくなるのは良くないと通信簿を廃止。ちひろは、丸山校長の配慮で安心して絵が描けるようになったと書いています。ちひろも、

黒柳徹子さん（下

写真）の自伝的著

書『窓ぎわのトットちゃん』に登場するトモエ学園の小林宗作校長に通じる素晴らしい先生に教わっていたんですね」

さらに若いちひろの美意識を育んだ存在が、14歳から4年間アトリエに通って絵を教わった画家の岡田三郎助（おかだ）です。

「彼のアトリエでは、絵画だけでなく美術工芸品や、さまざまな布などの一流の品に触れることができました。ちひろは服を自分でぬうなど、とてもおしゃべりで表現するのうまかったですね」

しかし、戦争を経験し、いのちを、生き方を見つめざるを得なくなったちひろは、疎開先の松本で日本共産党の演説会を聞



いわさきちひろ生誕100年「Life展」の記者発表会での黒柳さん。

き、入党。27歳で上京し、挿絵を描きながらやがて絵本作家へと活動の場を広げていきます。「調べていくと、戦後、筆一本で必死に自活していた。そして多くの人たちがちひろに魅力を感じてサポートしていたようです。ちひろも精いっぱい努力して仕事をし、やがて夫となる松本善明と出会った。二人は惹かれあい、結婚すると決めたようです。結婚してからも恋愛していた。だからすごく仲が良かったですね」

## ちひろと黒柳さんの

## 真つ白な心

ちひろの生涯を知り、生誕100年の記念展覧会を見ると、

# いわさきちひろ生誕100年 「Life展」へ行きましょう

さまざまな分野で活躍する7組の作家たちが、ちひろの作品とその発想のもと、「Life」をテーマにした新たな作品を生み出していく展覧会です。いわさきちひろの新たな世界に出合えます。

## あそぶ展 plaplax(アートユニット)

2018年3月1日(木)～5月7日(月) 安曇野ちひろ美術館  
2018年7月28日(土)～10月28日(日) ちひろ美術館・東京

子どもの遊びに着想した体験型作品を発表しているアートユニット・plaplaxが、ちひろの水彩技法などを楽しみながら、絵本作りを手がかりに「あそぶ」をキーワードにした展示を行います。



楽器を鳴らす子どもたち 1957年

## 花のように生きる展(仮) 大巻伸嗣(アーティスト)

2018年3月1日(木)～5月12日(土) ちひろ美術館・東京

世界的に活躍するアーティスト・大巻伸嗣が、いわさきちひろが、子どもを描く中で生涯見つめ続けたものを大きなスケールの造形で展示。アートの中を五感で旅するような体験を展開します。



ひなげし「花の童話集」(童心社)より 1969年

## ひろしま展 石内都(写真家)

2018年5月12日(土)～7月16日(月・祝) 安曇野ちひろ美術館

広島で被爆した人の遺品から、肌身に直接接触したものを中心に撮影を続けている石内都。広島で被爆した子どもたちの作文に絵をつけて絵本にしたちひろ。2人の作品を展示します。



死んだ女の子「わたしがちいさかったときに」(童心社)より 1967年

## 着るを楽しむ展 spoken words project (ファッションブランド)

2018年5月19日(土)～7月22日(日) ちひろ美術館・東京

## 子どものへや展 トラフ建築設計事務所(建築家)

2018年7月21日(土)～9月25日(火) 安曇野ちひろ美術館

## みんな生きてる展 谷川俊太郎(詩人)

2018年9月29日(土)～12月16日(日)

安曇野ちひろ美術館



© 深堀瑞穂

## 作家で、母で つくる そだてる展(仮) 長島有里枝(アーティスト)

2018年11月3日(土・祝)～2019年1月31日(木) ちひろ美術館・東京

ちひろ美術館・東京

① 東京都練馬区下石神井4-7-2 ☎03-3995-0612

時10時～17時 (休)月曜(祝休日は開館、祝の場合は翌平日休館)

安曇野ちひろ美術館

② 長野県北安曇郡松川村西原3358-24 ☎0261-62-0772

時9時～17時 (休)第2、4水曜(祝休日は開館、祝の場合は翌平日休館)

※展覧会名・会期などは予告なく変更となる場合があります。

また、新たな発見があるのではないのでしょうか。  
「現在、ちひろ美術館の館長は黒柳徹子さんです。二人は面識があったわけではありません。ちひろの訃報を新聞で知った黒柳さんから、『赤ちゃんや子どもたちの味方が、いなくなってしまうような気がして、涙が流れて』という手紙を頂いたことがお付き合いの始まりです。

生誕100年展覧会の記者発表でも、「いまでも世界には戦火や貧困、暴力にさらされている子どもたちがたくさんいる。ちひろさんが描いた子どもたちの真っ白な心を大人に伝えたい」と言ってくれました。僕もいま、そう思っています。ちひろが描いた平和、いのちの尊さを、世代を超えて見つめ直してほしいです」



お話を伺ったのは、  
いわさきちひろのご子息

松本猛さん

まつもと・たけし  
1951年、東京都生まれ。  
ちひろ美術館常任顧問。  
美術・絵本評論家、作家、  
横浜美術大学客員教授。



一人息子の猛さんによる  
評伝の決定版が誕生！  
『いわさきちひろ  
子どもへの愛に生きて』  
講談社 1,800円＋税